

キンランを楽しむ会、ササユリ観賞会

5 月 6 日(水)、5 月 31 日(日)の両日に 16 回目となる「キンランを楽しむ会」と初めて開催した「ササユリ観賞会」をそれぞれ開催しました。



「キンランを楽しむ会」には 40 名、「ササユリ観賞会」には 20 名の参加者がありました。



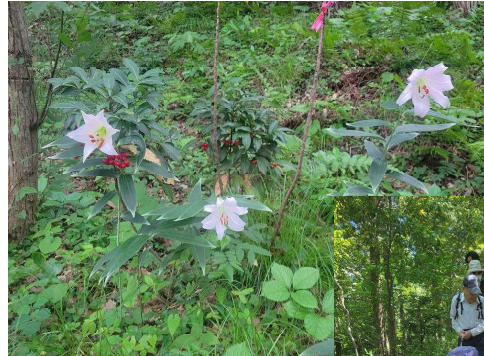
今年のキンランは 5 月末現在 295 本の株数を確認しています。あと少しで 300 株に手が届くところまできており、当日には、人手が足りずに不十分になっている落ち葉掻きについて、冬期に「落ち葉掻きイベント」を開催するのでその参加を呼びかけました。

一方初めての開催となった「ササユリ観賞会」ですが、こちらの方は女性の方の参加者だけでしたが、甘い香りが匂う中で、咲き誇る「ササユリ」に感嘆の声が上がりました。

ササユリは花がついている株が約 30 本、それ以外が役 20 本が確認できます。それ以外にも、種から発芽して 2、3 年生の葉が一つのものも多数確認できます。

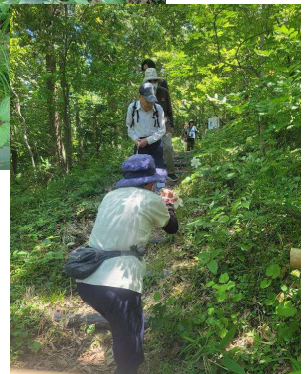
今後これらの稚苗の保全を含め、作業を進め

ていく必要があります。



田和山の森は、キンランとササユリが両方が楽しめる

場所として、極めて貴重な場所であることを再認識したイベントでした。



5 月の作業

- ・キンランの生育本数の調査
- ・クヌギ林に林床でのフキ取り、下刈り
- ・シイタケ原木の伏せ込み

6 月の予定

- ・モウソウチク林の整理とマダケのタケノコ採り
- ・斜面東側の林床の刈り払い



藤棚のフジ、今年は咲きました

田和山の樹木 第 73 回 ウツギ

5 月中旬から 6 月にかけて、主に林縁で小さな白い花をつける灌木がウツギです。

誰もがウツギという名を知らなくても、唱歌「夏は来ぬ」の冒頭「卯の花の匂う垣根にホトトギス……」の歌詞の「卯の花」で初夏を代表する樹木です。しかし、ウツギの白い花には、歌詞のような匂いはありません。この歌を作詞した古典文学の泰斗の佐佐木信綱氏がウツギ純白の花の美しさを強調するため、あえて匂うとされたとも言われています。



この木の特徴は、写真右のように幹が空洞になっていることで、ウツギは「空木(うつろぎ)」からついたと言われています。

しかし、乾燥した材は硬く腐りにくいため栓として、火起こしの錐としても使用されます。



今後の活動予定 6 月 5 日(金)、6 月 12 日(金)、6 月 20 日(土)、6 月 26 日(金)時間は 13:30 から、ただし土曜日は 9:00 からとなります。7 月 3 日(金)、7 月 10 日(金)、7 月 18 日(土)、7 月 24 日(金)、7 月 31 日(金)は全て 9:00 からとなります。

サユリ観賞会の説明資料

種 名 ササユリ：Lilium japonicum Thunb.

山地の林野や草原に生える多年草で葉がササに似ていることからこの名があります。5 月下旬から 6 月中旬に白色から淡紅色の筒状の花をつける、日本の固有種です。

現 状

田和山の生育状況

田和山に自生しているササユリは、比較的明るい林床で見られます。田和山では、元々生育していたササユリが樹木やタケに被われ見かけることがなくなっていたものが、間伐などによって明るさを取り戻し、再び生育するようになり、現状約 50 株(開花していないものを含む)程度が図のようにおおよそ 2 カ所で見られます。



以前は、多様な植生が広がっていた里山では、ササユリはありふれた植物として見られました。初夏に人目を引く淡紅色の花が彩り、芳香を漂わせていたササユリは、里山生態系の象徴ともいえる植物でした。しかし、田和山では、保全活動の結果、キンランとササユリが共に再生しています。

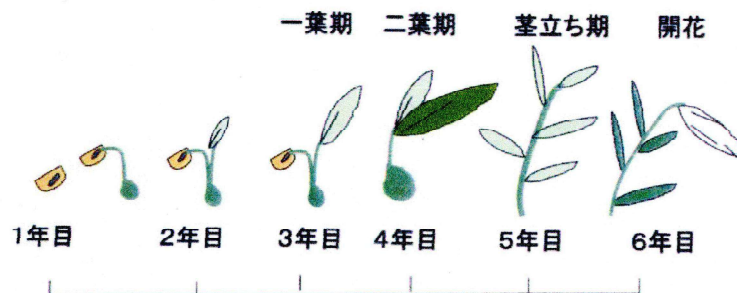
課 題

自生地保護・管理の方法

ササユリは、人為により保たれてきた里山などに生育していましたが、たが、近年では放置された里山の増加と共に各地で減少していますが、ササユリを再生していくために、里山の自然環境全体を回復していくこ

とが必要です。

そのため私たち「里山を育てる会」では、現在、生育が確認されている箇所では、ササユリ再生までの期間が図のように最短で 6 年と言われているので、息の長い活動を行い、埋土種子や現在咲いている花の種からの再生を含め活動を行います。(専門家によれば、開花している個体の翌年開花率は 50 %程度とされかなり気むずかしい植物と言われています)



ササユリの開花までの生育ステージのモデル

この資料を作成するに当たって、[稲垣栄洋, 2005 生態学的特性の解明と到花年数の短縮によるササユリ (Lilium japonicum Thunb.) の自生地保全及び園芸利用に関する研究]を参照しました。

今後の活動予定 6月5日(金)、6月12日(金)、6月20日(土)、6月26日(金)時間は 13:30 から、ただし土曜日はは 9:00 からとなります。7月3日(金)、7月10日(金)、7月18日(土)、7月24日(金)、7月31日(金)は全て 9:00 からとなります。

田和山の森から

第 261 号
令和 8 年 7 月 3 日
里山を育てる会

6 月の作業

東側斜面の刈り払い



東側斜面(主としてクスギ林)の林床をメインに刈り払いを行いました。その結果一昨年の伐採したクスギの萌芽が目立つようになりましたが、写真の様に 1 年で人の背丈ほどに成長しています。この刈り払い作業中にこの斜面で、新たに 4 株のキンランも見つけれ、この時点で、300 株となりました。

マダケの筍の採取

マダケ林の整理の一環として、筍の採取を行いました。モウソウチクほどの太さのものもあり、収穫してそれぞれに持ち帰りました。

カブトムシ用の檻の補修

一昨年に作成したカブトムシ用檻のネットの張り替えを行いました。

今年は本格的にカブトムシの養殖に取り組んでおり、今のところ順調にさなぎにまで成長しています。羽化する前までにあらかじめ檻のネットを強化しました。養殖中のカブトムシが何

頭いるのかが楽しみになりました。カブトムシの成長では、蛹の時期が一番微妙だといわれていますので今はそっと見守るだけで数の確認ができません。祭り供するのをしに楽しみ待ばかりです。



7 月の予定

- ・ヒノキ林の侵入マダケの整理
- ・斜面西側の林床の刈り払い

アジサイが咲き誇っています



田和山の樹木 第 73 回 タニウツギとコックバネウツギ

前回に紹介したのはウツギですが、田和山にはウツギの名がついた樹木が外に二つあります。それがタニウツギと、コックバネウツギです。この二つはスイカズラ科に属しアジサイ科に属するウツギとは別のグループになります。両者とも幹や枝が中空となりますので、ウツギがついています。



タニウツギは、北海道西部から山陰地方の日本海側を中心に分布している落葉低木で、ウツギよりやや早いころから色鮮やかピンク色の花を、満開時には枝が垂れるほどになります。普段はあまり目立ちませんが、花期には、存在感が際立つ低木です。田和山に生育しているのは全て植栽したものです。

コックバネウツギは日本固有の落葉低木で、日当たりのよい山地や丘陵地の雑木林に見られます。5～6 月に咲く花は、薄いクリーム色ですが、花の内部にオレンジ色の網目模様があり、全体に黄色っぽく見えます。ツクバネウツギの花に似ていますが、名のとおり小さく、花の長さは 2 センチほどしかありません。ツクバネウツギと見分けるのは、萼片の数で写真右のように 2 枚です。この萼片は、実をつけても残っており、羽根つきの羽根のような姿になります。名前の由来は、「つく羽根」がツクバネで、中空の幹を持つことからウツギで、ツクバネウツギより小振りなのでコックバネウツギになったと言われています。



今後の活動予定 7 月 3 日(金)、7 月 10 日(金)、7 月 18 日(土)、7 月 24 日(金)、7 月 31 日(金)、8 月 7 日(金)、8 月 21 日(金)、8 月 28 日(金)全て 9:00 から開始となります。

田和山の森から

第 262 号
令和 8 年 8 月 7 日
里山を育てる会

7月の作業 西側斜面の刈り払い



7月に入り例年通り暑さ対策として午前中の作業に変わりましたが、今年も猛暑が続いています。そのような中、市道浜乃木乃白線沿いの西側斜面の林床整理を行っています。暑さのため予定通りの作業にはなっていない。写真のように、あじさいにはなんとか間に合いました。よく目立つようになりました。

カブトムシの飼育



今年は本格的にカブトムシの養殖に取り組んでおり、22日時点 50 頭以上の雄が成虫になりました。8月9日の湖南フェスティバルまで生かしておかなけれ

ばいけません。餌当番を決め飼育中ですが、猛暑のせいか日に日に数が減ってきており、何頭生き残るのか心配でなりません。

田和山史跡公園では、トイレ建設が始まりました

かねて要望していました、田和山史跡公園のトイレ整備が今年度実施されることになり、7月に入り工事が始まりました。来春の完成まで駐車場が使えませんが、それよりもトイレ整備が優先事項ですので 1 日も早い完成が待ち望



まれます。完成すれば史跡公園の来場者の利便性が格段に向上することになります

8月の予定

- ・ヒノキ林の侵入マダケの整理
- ・斜面西側の林床の刈り払い
- ・竹林の整備

田和山の樹木 第 74 回 ムラサキシキブ

ムラサキシキブは、北海道の南部以南の日本各地に分布するシソ科の落葉低木(樹高は最大で 3メートル程度)です。森林や道路わきの藪などにも自生しています。秋になると直径 3 ミリほどの紫色の実がつき一目でわかりますが、それまではあまり目立つ木ではありません。この紫色の実(写真右)から庭木や花材として用いられます。



江戸時代まではムラサキシキミ(紫色の実ができるシキミ)という名前がついていましたが、源氏物語の紫式部にあやかってムラサキシキブの名に変わったと言われています。がついたようです。一度聞けば忘れることのない和名となっています。



秋が深まるにつれ葉が黄色く色づき、ムラサキ色の実とのコントラストが際立ちます。実はメジロ、ヒヨドリなどの野鳥に採食され、分布を拡げています。葉は長さ 6 ~ 12 センチの長楕円形で枝から対になってついており、縁には細かなギザギザがあります。

今後の活動予定 8月7日(金)、8月21日(金)、8月28日(金)、9月4日(金)、9月11日(金)、9月19日(土)、9月25日(金)全て 9:00 から開始となります。